

【全体概要】‘あすみ’は農研機構果樹茶研究領域で育成された品種である。完熟果では糖度が高く、非常に食味が良いという特性から、既存品種を凌駕する果実需要が創造できると考えている。柑橘栽培に特化した地域に導入すれば、農家の経営安定、産地振興に貢献することができる。生産者組織や関係機関と協力し、栽培技術を確立し普及定着を図る。

新品種・新技術等の概要

1992年に果樹試験場興津支場において、‘カンキツ興津46号’に‘はるみ’を交雑して育成された品種である。2012年3月登録。果実は150-200g、果皮は橙色で薄い。果面は滑らかで、剥皮はし易い。三重県南部において、施設栽培では1月中下旬、露地栽培では2月下旬が収穫適期である。糖度は15%以上と高く、食味は良好である。また、βクリプトキサンチン含量が温州ミカンよりも多いことが示唆されている。令和2年3月現在、熊野農林事務所管内において施設栽培と露地栽培で試験栽培なされている。



ハウスあすみ
結実状況



ハウスあすみ
果実断面

主な取組内容

試験場等と連携し、苗木育成、摘果、剪定等栽培技術の検討、収量性の検討、冷蔵による長期貯蔵の検討、機能性成分の分析、利用促進調査のためのアンケート調査を行った。さらに生産者と協働して、現地実証圃を設けて施設及び露地栽培技術の検証を行った。実需者と連携して、販売戦略、品質評価の検討など、ブランド確立に向けて商品化に関する協議を行った。

実施体制図

紀州地域農業改良普及センターが中心となり、生産者、実需者、県研究機関、県市町行政担当課との連携を図りながら、各機関の調整や事業の進行管理を行う。実需者は、量販店への出荷・販売を行うJA伊勢三重南紀地区本部、地元商系出荷業者、JA全農みえを想定する。産地指導において、農業革新支援専門員と連携する。

三重県 関係機関の総合調整、栽培指導

生産者
JA中晩柑部会
栽培技術確立

JA伊勢三重南紀地区本部
商系集荷販売業者
JA全農みえ

販売に関する評価

市町協議会
営農連絡会
生産振興
事業対応

課題と今後の対応

施設及び露地栽培において、果実肥大期に裂果が多発することが判った。8-9月期の土壌水分管理を改善し、裂果抑制を検証する。施設栽培において、CO2施用時の環境制御に課題が残った。樹勢維持、開花期前進は実現できたが、果実初期肥大期以降の温度管理を検証する。接ぎ木、剪定、結実管理については、概ね検証できたので、継続して実証する。